

資料3 がい、擁壁及び土留めの危険度判定基準

<p>分類 状態</p>	<p>1 無筋及び鉄筋コンクリート造擁壁 2 間知石等練積み造擁壁 3 大谷石等による空積み造擁壁 4 軽量及び重量ブロック積み造擁壁</p>	<p>5 親杭を用いた横矢板による土留め 6 鋼矢板による土留め</p>	<p>7 切土又は盛土による人工がい 8 がい崩れ又は土砂の流出を生じたがい</p>
<p>外見の状態</p>	<p>次の状態が生じている。 ? 縦クラック(幅1cm以上) ? 斜めクラック(") ? 横クラック } 単なる伸縮によることが } 明らかでないクラックを } 除く ? 滑動 ? 傾斜 ? はらみだし ? 沈下 (分類1又は2で初期沈下により変位を生じ、その後安定しているものを除く。)</p>	<p>次の状態が生じている。 ? 親杭の曲がり、折れ ? 壁の前傾 ? 矢板のはらみ出し、ひび割れ ? 親杭、矢板の腐食</p>	<p>次の状態が生じている。 ? がい面またはがけ上が水の浸透しやすい土であり、次のいずれかに該当するもの。 ア 既存排水施設の破損、管理不足により、がい面へ直接排水されている。 イ がい面に水が集中しやすい地形となっている。 ウ がい上に水が溜まりやすい地形となっている。 ? がい面の風化が進んでいる。 ? がい面又はがけ上にクラックが入っている。 ? がい崩れ又は土砂の流出を生じている。 (崩れた結果、安定しているもの、対応の防災工事を行ったものを除く。)</p>
<p>外見の状態</p>	<p>の状態が以前のパトロール時より進行している。 擁壁上が水の浸透しやすい土であり、次のいずれかに該当するもの。 ア 擁壁上の排水施設が未整備である。 イ がい背を背負っている。 ウ 擁壁上に水が溜まりやすい地形となっている。 クラックの位置で、壁面が前後に段差を生じている。 高さ1mを超える増積みがしてある。 擁壁又は土留めが、人工架台、建築物等の基礎を兼ねている。 擁壁上の過載荷重が増された。 擁壁下が洗掘されている。 基礎底が露出している。 降雨後しばらくしても、水抜き穴以外から水が出る。 その他、災害の発生の可能性が考えられるもの。</p>	<p>降雨後しばらくしても、矢板の隙間から水が出る。</p>	<p>の状態が以前のパトロール時より進行している。 がい面にオーバーハングがある。 がい面の中段に擁壁又は土留めがある。 がい面に不安定な高木がある。 がい上の過載荷重が増された。 更にがい下の掘削が行われた。 がい面に湧水がある。 その他、災害の発生の可能性が考えられるもの。</p>
<p>備考</p>	<p>「擁壁上」: 擁壁又は土留め上端に続く地盤面 「擁壁下」: 擁壁又は土留め下端に続く地盤面</p>		<p>「がい上」: がい上端に続く地盤面 「がい下」: がい下端に続く地盤面</p>

上記判定基準から次の項目により危険度判定を行う。

- 1 がい及び擁壁等の全体を見て、その種類を判断基準の分類によりそれぞれ区分する。
- 2 「外見の状態」のいずれかの状態にあるものを、危険度Bとする。
- 3 「外見の状態」の状態にあり、かつ「外見の状態」のいずれかに該当するものを危険度Aとする。